

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名: モレミール W (エアゾール)
 会社名: 株式会社タセト
 所在地: 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前100-1
 緊急連絡先: 化学品部
 電話番号: 0466-29-5638
 FAX番号: 0466-29-5630
 推奨用途及び使用上の制限: タンク、配管等からの水漏れ検査剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール	区分1
健康に対する有害性:	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分1
	皮膚感受性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(呼吸器)
		区分3(気道刺激性、麻痺作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(肝臓、肺)
吸引性呼吸器有害性	区分外	

*記載のない物理化学的危険性、健康に対する有害性及び環境に対する有害性は、分類対象外又はデータが無く分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
 高压容器:熱すると破裂のおそれ
 皮膚刺激
 重篤な眼の損傷
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 遺伝性疾患のおそれの疑い
 発がんのおそれの疑い
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
 臓器(呼吸器)の障害
 呼吸器への刺激のおそれ/眠気又はめまいのおそれ
 長期又は反復ばく露による臓器(肝臓、肺)の障害のおそれ

注意書き:

【安全対策】 保護眼鏡、保護マスク、保護手袋を着用すること。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 作業場では、防爆仕様の局所排気装置を設置し使用すること。
 蒸気、ミストを吸入しないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。

- 【応急処置】 皮膚に付着した場合、汚染された衣服を再使用する前に洗濯すること。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当を受けること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。
- 【保管】 涼しく換気の良いところで保管すること。
- 【廃棄】 環境への放出を避けること。
内容物、容器を国または都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

含有成分：

成分名	含有量(%)	CAS No.	PRTR法 ¹⁾
ヘプタン ^{II)}	20～30	142-82-5	非該当
白色無機粉末類	5～15	非公開	非該当
水酸化カルシウム ^{II)}	1～5	1305-62-0	非該当
界面活性剤	<1	非公開	非該当
発色剤	<1	非公開	非該当
噴射剤 LPG :プロパン :ブタン ^{II)}	15～20 40～45	74-98-6 75-28-5、106-97-8	非該当

危険有害成分

- I)化学物質排出把握管理促進法 非該当
- II)労働安全衛生法 第57条2 通知対象物質：水酸化カルシウム（政令番号317）
ヘプタン（政令番号526）、ブタン（政令番号482）
- 毒物劇物取締法 対象物ではない

4. 応急措置

- 目に入った場合： こすらずに、すぐ清浄な水で目を洗い、医師の手当てを受ける。
もし、コンタクトレンズを使用の場合はできるだけ取りのぞいて洗浄を続ける。
- 皮膚に付着した場合： 水又は石鹸でよく洗い流す。もし皮膚に炎症が生じた時は、必要に応じて医師の診察を受ける。
- 吸入した場合： 風通しのよい所に移し、新鮮な空気を吸わせる。
- 飲み込んだ場合： 水で口をすすぎ、すぐにコップ1～2杯水を飲み、医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤。
大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤。
- 消火方法： 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
周辺火災の場合は容器を安全な場所へ移動する。
消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

流出したものが河川などに流れこんで環境に影響を与えることのないよう注意する。
少量の場合、漏出液はおがくず、ウエス、砂などに吸収させて処理する。
多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、バキューム車などで回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取り扱い： 吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように適切な保護具を着用する。
取り扱った後の手、顔などは十分に洗浄する。
容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしない。
- 保管： 屋内貯蔵。換気良好な冷暗所に直射日光、40℃以上になる所、錆の発生しやすいところを避けて保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度： 設定されていない
- 許容濃度： 日本産業衛生学会 ヘプタン： 200ppm
無機粉塵： 吸入性粉塵 2mg/m³、総粉塵 8mg/m³
ACGIH ヘプタン： TLV-TWA 400ppm
- 防止対策： 局所排気の設置
- 保護具： 呼吸用保護具は、必要ならば粉塵用マスクを用いる。
保護眼鏡は、ゴーグル。保護手袋は、ゴム製、またはビニール製手袋
保護衣類は、前掛け。

9. 物理的及び化学的性質**「原液」**

- 外観： 灰色懸濁液体
- 臭気： 石油臭
- 比重： 1.1
- 沸点： 98°C(ヘプタン)
- 融点： 未測定
- 溶解度： アセトンに易溶
- 引火点： 0°C以下(ヘプタン)
- 発火点： 204°C以上(ヘプタン)

「噴射剤」LPG	プロパン	ブタン
沸点：	-42°C	-0.5~-11.7°C
凝固点：	-187°C	-138~160°C
引火点：	-90°C	-72~-81°C
爆発限界：	2.2~9.5 vol%	1.8~8.5 vol%
蒸気密度：	1.15 (空気1)	2.07 (空気1)

10. 安全性及び反応性

- 安定性： 安定である。
- 自己反応性・爆発性： 自己反応性はない。
40°C以上のばく露を避けること。(本品;エアゾール缶の破裂の危険がある)

11. 有害性情報

- 急性毒性(経口)： 分類できない
- 急性毒性(経皮)： 分類できない
- 急性毒性(吸入:蒸気)： ヘプタン:マウス LC₅₀ (2 時間)値:75mg/L(4 時間換算値 53mg/L)に基づき、53mg/L は蒸気圧からミストをほとんど含まない蒸気と判断して ppm 濃度基準値で分類した。53mg/L は換算係数(1ppm=4.1mg/m³)から 12927ppm と換算されることから、区分外とした。
- 急性毒性(吸入:ミスト)： 分類できない
- 皮膚腐食性・刺激性： ヘプタン:ヒトへの影響として皮膚への接触により刺激性が認められるとの記述から、区分2とした。
水酸化カルシウム:眼および気道を含むすべての身体表面ばく露に対し中程度の刺激性を示すとの記述(ACGIH, 7th, 2001)及びヒト皮膚に対して moderate, severe, corrosive な刺激を示すとの記述(IUCLID, 2000; HSDB, 2005; ICSC(J), 1997; SITTING, 4th, 2002; HSFS, 2005)から区分2とした。
- 眼に対する重篤な損傷
刺激性： 水酸化カルシウム:ヒト眼に対して moderate, severe, corrosive な刺激を示すとの記述(ACGIH, 7th, 2001; IUCLID, 2000; HSDB, 2005; ICSC(J), 1997; SITTING, 4th, 2002; HSFS, 2005)及びウサギに対して corrosive な刺激を示すとの記述(IUCLID, 2000)から区分1とした。

呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	発色剤：ヒトにおいて、皮膚アレルギー性反応をしめすとの報告がある(IARC 76, 2000、HSDB, 2004)ことから、区分1とした。
生殖細胞変異原性：	発色剤：Ames試験およびin vitro姉妹染色分体試験では陰性だが、マウス末梢血でのin vivo小核試験およびin vitro染色体異常試験で陽性であることから(IARC 76, 2000)、区分2とした。
発がん性：	発色剤：IARC が 2B に分類している(IARC 76 2000)。また、NTP が R に分類していることから、区分 2 とした。
生殖毒性：	発色剤：マウスの経口投与での生殖毒性試験において、親動物への一般毒性についての記述は無いが、F0 および F1 動物で精巣重量の低下と精子数の減少、妊娠率の低下による出産児数の低下、仔動物の体重減少等が見られたとの報告がある(IARC 76, 2000)ことから、区分 2 とした。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)：	水酸化カルシウム：ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述(ACGIH, 7th, 2001; HSDB, 2005; ICSC(J), 1997; SITTING, 4th, 2002; HSFS, 2005)から区分1(呼吸器系)とした。 ヘプタン：ラット又はマウスを用いた吸入ばく露試験において麻酔作用及び気道刺激性が認められたとの記述、ならびにヒトばく露例において中枢神経抑制や粘膜刺激性がみとめられたとの記述から、区分 3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)：	ヘプタン：具体的な症例は示されていないが、肝臓に影響を与え、機能障害を生じることがあるとの記述から、区分2(肝臓)とした。 水酸化カルシウム：Priority 2においてヒト肺を冒すことがあるとの記述(ICSC(J), 1997; SITTING, 4th, 2002)から区分2(肺)とした。
吸引性呼吸器有害性：	エアゾールはミストの状態で噴霧されるので、通常は該当しないため、区分外とした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)：	分類できない
水生環境有害性(長期間)：	分類できない
オゾン層への有害性：	分類できない

13. 廃棄上の注意

[取扱いおよび保管上の注意]に記載する注意点に従う他、法規制に従った処理方法をとる。

残余廃棄物を焼却する場合は、法規制に従って適正に処理する。

残余廃棄物および空容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた業者に本MSDSを提示し、法規制に従った適正な処理を委託する。

14. 輸送上の注意

UN No.(国連番号)：	1950
Proper Shipping Name(品名)：	エアゾール (Aerosols)
Class(クラス)：	2.1
Packing Group(容器等級)：	—
緊急時応急措置指針番号：	126

[取扱い及び保管上の注意]に記載する注意点に従う他、法規制に従った輸送方法をとる。

輸送前に容器が密閉されているか確認する。

容器の輸送および運搬は、常にしっかり固定した状態でおこない、特に缶は輸送中に互いに衝突して破損することのないようあらかじめ適当な緩衝物を詰める。

15. 適用法令

消防法： 第4類 第一石油類（非水溶性）危険等級Ⅱ
労働安全衛生法： 通知対象物質 ヘプタン、水酸化カルシウム、ブタン
化学物質排出把握管理促進法： 非該当
（PRTR法）
毒物及び劇物取締法： 非該当
水質汚濁防止法により、有機物負荷排水を直接環境へ放出することは規制されている。
下水、河川、海、土壌中に直接廃棄することはできない。

16. その他の情報

参考文献：

- 1) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
- 2) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
- 3) JIS Z 7252:2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
- 4) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 5) 株式会社タセト 社内資料(原材料MSDS)

記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていないが、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。